

北海之光

10月号 北海道教区報

主にあってはあなたがたの
労苦がむだになることはない
コリントI 15章58節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12
日本聖公会北海道教区事務所
電話 011-717-8181
FAX 011-736-8377
E-mail:hikari@nsskk-hokkaido.jp
http://www.nsskk-hokkaido.jp
発行人 植松 誠

塔を建てようとするとき

小樽聖公会牧師・帯広聖公会管理牧師
司祭 クリストファー 永 谷 亮

あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか。

(ルカ一四:二八)

今の時代、塔を建てようとする人はなかなかいないと思います。実は今、私は「清水寺」を作っています。といっても、材料はプラスチックの小さなブロックです。今年の一月に、『nanoblock®』でつくる日本の世界遺産『朝日新聞出版』が刊行され、毎週(現在は隔週)少しずつブロックのピースが届いて、設計図に基づいて組み立てていくというものです。

創刊号サービス価格四九〇円!というテレビCMもあり、壮麗な清水寺を、一ピース約四ミリの四方のブロックで

ディテールも細かくコツコツ組み立てあげていくことに口マンを感じて申し込んでしまいました。毎週少しずつではあってもブロックのピースが届いて、それを組み立てていくのはとても楽しいものです。初めのうちは敷地の端から土台を作っていたりするので、このピースが「隅の親石か」などと考えてみたり、清水寺の象徴でもある「大舞台」や外陣を作ったりして、全体を想像したり、実際に自分が訪れた部分を思い出したりしながら毎号すぐに終わってしまうのが残念に思ったりしていました。しかし、意気揚々と組み立てられていたのは最初の頃まででした。

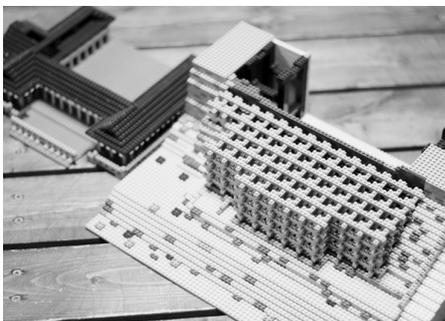
ある程度、土台や舞台の組み立てが終わると、待っていたのは、単調で細かく面倒な、

外からはほとんど見えない、基礎の部分や大舞台を支える、無数の柱や梁の組み立てでした。毎号同じような色や形のピースがしばらく続き、「もう飽きた」と思うこともしばしば。もし最初のうちからこんなだったら解約していたかもしれない、出版社も構成をよく考えたものだと関心したりしました。しかし、これこれ九ヶ月、サービス価格に釣られて毎号購入しているうちに後戻りできなくなってしまうています。

弱音を吐きたくなるときもありますが、モチベーションを保たせてくれるのが美しい完成図です。紅葉に彩られた崖にせり出す壮麗で静謐な清水寺。美しい佇まいや、大舞台に目がいく清水寺ですが、そこには、舞台や外陣、屋根だけでなく、全体を支える基礎、柱、梁があるのです。単調でつまらない作業があっても、それなくしては完成しません。すべてが組み合わせられることによって出来上がるのです。

キリスト者の信仰、そして神さまによるわたしたちという作品もまた、わたしたちにとっては、このような地道で単調で、弱音を吐きたくなるような時があるのではないのでしょうか。しかし、その完成図はブロックの清水寺をはるかに凌駕するものであるはずです。一つひとつのピースはどれも必要なもので、すべてのピースは神さまの設計に基づくものだからです。

創刊特別号は無料!「赦しと救い」、完成図「神の国」。設計・制作・神、発行元・イエス・キリスト、定期配送…聖霊。お求めはお近くの教会まで!



2019年10月1日現在の進捗



—心の窓をひらいて—

福音と私(二二二)

—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

有珠聖公会信徒

ヨハネ 茅野 達雄



私の教会生活は幼児洗礼を受けて始まりました。洗礼盤の前に頭を垂れて、冷たい聖水で洗礼をして頂いたのを覚えていません。山梨県にある清里聖アンデレ教会です。そして洗礼を授けてくださったのは現在のナタナエル植松誠主教のお父さんである、当時は皆がファーザーと呼んでいたアブラハム植松従爾司祭でした。数えると七〇年近くなります。



有珠聖公会聖堂の主の祈りの額

反抗期になると、なるべく

教会から遠ざかる事に努めていました。大学卒業後も就職先が日曜、祭日に休暇が取れない仕事で、増々教会生活は遠のいていました。しかし不思議な事に心の中では、いつも教会の存在が気になっていました。五〇歳を過ぎた頃に転勤で、やっと日曜・祭日が定休の仕事に就きました。その頃父や母がお世話になってる教会が札幌キリスト教会でしたので、私の籍も同じ教会に移していただきました。その時に奇跡が起こりました。幼少の頃礼拝堂の中を一緒に走り回っていた(ファーザーは「子どもたちは天使だから」と言っただけ許してくださっていたそうです。)植松誠主教が北海道の主教として着任するということを聞き、ビックリしました。これも何かの縁という事でしようか、またこれは教会に行きなさい

という、神のお告げかなとも思いました。着任式には昔懐かしい清里の面々が札幌に集まりました。そして、この事実が無ければ私はまだ教会を遠い存在にしていたかもしれませぬ。教会に行こうと決めたのですが、しかし住まいが遠方であり、簡単に札幌に出られる距離でないこともあって、月に一・二回ほどしか礼拝を守ることができませんでした。そうこうしている内に母も父も主のもとに召されて行きました。そのことを機会に住まいの近くに在る有珠聖公会に籍を移して礼拝を守っていました。

有珠聖公会は、今は無牧で礼拝は月に一度管理牧師であるペテロ大町司祭が来てくださり、聖餐式が守られています。毎回約一〇名の出席があります。礼拝堂の正式名称にもある通りここは「バチラー夫妻記念堂」で、一昨年献堂八〇年を迎えています。建物には石造りで、立派ですが維持には物心両面で大変な努力が必要だと思えます。我々もつと力を尽くし仲間の信者を増やしていかなければと思えます。教区の標語にもある通り「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください」。私は心の弱い者ですが、この標語に向かつて歩んでいけるように努めたいと思えます。幸いな事に私が有珠教会に来てから若い二名の信者さんが増え、大変心強く思っています。これも皆大町司祭の大きな働きの結果と感謝しております。

そして、今年も九月二十八日に秋の大イベント、教会バザーが行われました。他教派の応援者(四名)も含め約一二名のスタッフで開催しました。一ヶ月ほど前からポスター掲示の依頼、チラシ配りとささやかですが皆で手分けをして周知を図りました。当日は天候も快晴・微風の絶好のバザー日和となりました。各所で秋のイベントが重なり多少の不安もありましたが、多くの来場者に恵まれ感謝でした。また、札幌キリスト教会の絶大な協力を頂き、さらに近在の方々の物資の提供も頂き、約七万円程の収益があり、スタッフ一同ホッとしております。協力・協賛頂いた方には心より感謝申し上げます。さて、私事に戻りますが、自分なりにキリストの教えは何なのかという葛藤が起こるといふか湧いてきます。キリストは十字架に架けられても相手の罪を許したというのですが、私は些細なことなのに中々人を許せません。心が弱いからなのでしょう。それは一体何なのでしょう。か? 「サタンは恵まれた状態の時に心の中に現れる」のだと言われたことがあります。また、ある人は「だから教会に行つて懺悔してくるのだ」と言います。そのような場で私は何と言つて祈れば良いのかと常に悩みます。七〇台の後半になつても私の弱い心は神様の言う「許し」の気持ちを持てないことに悩み続けています。八月号の「北海之光」に大町司祭が「主の祈り」について解説してくださいました。『主はその罪がもたらす束縛の一つ一つにコミットし、罪に苦しむあなたを、ないがしろにする事は決してありません』と。聖歌四九八番に歌われているように、私は主に全てを頼り、許しができる生き方を求めて、教会生活を送っていききたいと思えます。

常置委員会報告 第一一回 九月二〇日

《協議事項》

- 一、各教区財政担当者連絡協議会の件(二月六〜七日 於:管区事務所)
- ・副主事の出席を承認した。
- 二、教区事務所パソコン買い

換えの件

- ・業務に支障が来すようになり購入を承認した。

- 三、教区事務所の災害・停電対応について
- ・提案を承認した。

- 四、教区より社法への資金貸し付けに関する件
- ・補助金が入るまで一時的に

貸与する事を承認した。社法との間で契約書を交わす。

五、管区「各教区人権担当者会」(二月九〜一〇日 於:大阪岸和田)

- ・広谷和文司祭(教区人権担当者)の出席を承認した。

- 六、管区「礼拝及び礼拝音楽担当者会」(二月二九〜



主教室より

NHKの番組に「ファミリヒストリー」というのがあります。たまにしか見ないのですが、とても興味深く感じることがあります。本人も知らない家族のルーツを番組が調べて編集し、それを司会者と一緒に本人も見ると、想像もしなかった事実があったり、家族の有りがたさに改めて思いを深くしたり、なかなかおもしろいのです。芸術家、俳優、芸能人など、様々な人生を送っている人たちです。普段、ただおもしろおかしく大騒ぎをしているように見える芸能人の背後に、どれほど家族のいるんな人たちが関わり、愛

情を注ぎ、大切な時を共有してきたことか。見ているうちに、たいして興味もなかった人の内面的なものに感動を覚えることもあります。両親兄弟、祖父母、曾祖父父母:脈々とつながる「家族の歴史」というものは知れば知るほど、一人の人間の尊厳、人生の不思議さを実感するものです。

人を知るといふこと、そこには無限にその人を大切に思う原動力みたいなものが溢れているように思えます。ただテレビの画面で見ているだけの人であつても、なんだか調子のいい人だとか、騒がしい人だなどと思っていたことを覆すような、ああこの人にもこんなに豊かな人生があるのだ

と感動してしまうのです。

私たち自身は自分のファミリヒストリーをすべて知っているわけではないでしょうけれど、確かにいくつもの人生の上に私たちの人生が営まれていくこと、そして、誰よりも、私たち自身よりも、ファミリヒストリーを含めて私たちのすべてを知っていてくださる方が、それぞれの人生を感動をもって見守っていてくださることに改めて思いを馳せるのです。私たちは誰一人として突如作られたわけではなく、たくさんのかけがえのない人の存在と関わりの上に、そして大いなる方のご計画のうちに「究められて」(詩編一二九:一) いるのです。

主教 ナタナエル 植松 誠

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

二月三日(水) 午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

- 次の方々を覚えて祈ります。
- 司祭 J・ウィリアムス 一九二〇年一月一日
- 主教 W・アンデレス 一九三二年一月一日
- 主教 前川 真二郎 一九五三年一月一日
- 伝道師 A・M・エバンス 一九五一年二月二日
- 執事 町田 巖 一九九七年二月三日
- 執事 中西 弘 一九八九年一月七日
- 伝道師 鈴木 雅彦 一九二三年一月二二日
- ・出張を承認した
- 一〇、植松主教出張の件(二〇二〇年一月一〜一九日、首座主教会議のため、於:ヨルダン・イスラエル)
- ・出張を承認した。
- 一一、稚内聖公会の件
- ・現在の建物の解体も検討したが、当面近隣に迷惑の心配がないよう配慮しながら、これまで通り使用することとする。
- 伝道師 松本 ジョウウ 一九七八年一月一四日
- 伝道師 ルーシー・ペイン 一九三二年一月一七日
- 伝道師 西田 喜一 一九六一年一月一八日
- 伝道師 M・ブラウンロー 一九二二年一月一九日
- 伝道師 渡辺 誠 一九四八年一月一九日
- 主教 G・J・ウォルシュ 一九七二年一月一九日
- 司祭 雨宮 大朔 二〇一五年一月一九日
- 執事 富田 恒躬 一九四〇年一月二二日
- 司祭 鈴木 善四郎 一九一八年一月二六日
- 伝道師 A・M・タブソン 一九四〇年一月二六日

第二回 クラスタ(群れ) ミーティング報告

教区宣教活動推進部 宣教ミーティンググループ

実施に至る経緯

当グループでは、教役者との協働で取り組んできた三〇〇に及ぶ宣教課題を第一ステップとして六項目の宣教優先着手課題に絞り込み、二〇一六年、北海道教区「宣教・教会の十年」へ船出し、進行のお手伝いを進めてまいりました。

今のところ全項目の完成には至りませんが、第二ステップの一項目として協議してきた「クラスタ(群れ)ミーティング」の詳細を検討し実施いたしました。

クラスタ(群れ)とは 共通の環境・課題などを有する教会群をいう。一例としては、中規模教会、小規模教会、定住者教役者のいない教会、施設を持つ教会、札幌圏教会等で、今回のクラスタは、現在堅信受領者五〇名以上で札幌圏以外の教会とした。

該当教会

旭川聖マルコ教会、帯広聖

公会、函館聖ヨハネ教会

参加者の指定

定住教役者、信徒三名(内、女性一名、会計担当者一名)

第一日目

九月一五日 1830 ~ 2100

北海道クリスチャンセンター

一八時三〇分 受付

開会の祈り 大町司祭

主教挨拶

EP二番組「心の時代」で放映されていた長崎の古巣神父さんのお話から感じた事で、「教会の宣教とは、案外、大きな行事を行うこととか大きな事ではなく、教会の中で日常的に守り続けてきた事を守り通す事」なのではないか?と。

オリエンテーション

生活に関する注意点を永谷司祭から、またプログラム

の件については大町司祭からの説明があった。

過去に、教区全体の宣教ミーティングを実施した際、

様々な状況の異なる教会同士ではなかなか話しが合わない

問題があったので、第一回目としては上記の三教会としての詳細を説明した。

懇親会

丸山悦子さんの担当で、各自が五枚の自分の名刺を作り、お互いに紹介し合うゲームを通し、相手と所属教会の特徴を楽しみながら知り合う事が出来た。

第二日目

九月一六日 900 ~ 1430

教区会館(全員の円卓会議)

・セッション一

自教会の「教会の夢」について①出てきた背景②その達成状況③今後の展望について参加者全員から発表。

・セッション二

自教会の具体的な事について①ささげものを生かす働き

②共同体の成長・課題③地域へ開かれることについて教会毎の相談時間を取った後に発表と全体協議。

・セッション三

これまでのセッションを通して各自が気づいた事、持ち帰りたい事、感想等の全員の発表によるわかち合い。

・献金は個人の信仰の証として

て色々な機会にささげる努力が必要だろう。教区発行のしおりを参照して欲しい。

・教会は困難に苦しむ人の癒しの場、何でも話し合える場。

・教会として社会的弱者への手助けの働きをしたい。

・レターボックスに溜まった個人資料を送付するだけでなく自宅に届ける努力が大切。

・教会の葬儀についてももう少し突っ込んだ話し合いが必要。

・如何にしてではなく何を発信するかだと気づいた。

・教会の周囲美化は、来訪者を和ませることに繋がる。

・様々な自己研鑽、特に人との関係性向上が大切。

・次回のクラスタは、札幌圏または、歴史と伝統がありながら沈滞している教会群を希望したい。

・宣教は信徒の務めと感じた。

・悪いところだけでなく良いところも出し合いたい。

・ただ実行するだけでなく何の為?と、立ち止まりが重要。

・今年は何とかしてキャロリングを実施したい。

その他多くの有意義なご意見等をいただきましたが紙面

の都合上割愛いたします。次回の企画に乞うご期待。

教区主教のご講話

スタッフ及び参加者への慰労のお言葉の後、「一人ひとりが持っている賜物をどう生かすかが大切。過去の大きな試練を乗り越えさせて下さった神様に感謝し、行動の喜びを忘れずに」とのお言葉をいただいた。

閉会の祈り 吉野司祭



教区会館八角堂での話し合い

参加者

旭川(広谷和文司祭、大友崇、大友愛美、山崎典美) 帯広(阿部恵子執事、大野佳子、大村倫子、橋本知樹) 函館(藤井八郎司祭、石戸厚子、藤井直、丸山恵司) スタッフ(植松主教、他、宣教ミーティンググループ員八名全員)

文責 久末隼一

熊本レポート

「二〇一九年日本聖公会人権セミナー」に参加して

司祭 ミカエル 広谷和文

九月四日から六日にかけて、日本聖公会の「人権セミナー」が開催された。このセミナーは、各教区が順に担当し、担当する教区が取り組んでいる人権活動やその地域の人権に関する課題を共に学ぶため、二〇〇五年より開催されているものである。今年も九州教区を担当により、熊本で開催された。「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」をテーマに「ハンセン病問題」に絞って、貴重な学びの時間を与えられた。会場は、熊本聖三一教会と国立ハンセン病療養所菊池恵楓園及びリデルライトホーム。

二日目は朝から菊池恵楓園を訪ね、入所している方々のお話を伺う。入所者自治会長志村康さんが、ご自分の歩んだ道を通して、ハンセン病患者への差別と宗教の関係について鋭いお話をしてくださいました。志村さんの家は臨済宗であつたが、恵楓園入居後真宗大谷派に転向。そのころ暁鳥敏（あけがらす・はや）という真宗の傑物と言われた僧が何度も恵楓園に来て「死後もあなたの方の座がちゃんと用意されているから安心して念仏を唱えなさい」と説教したと言ふ。これを聞いた志村さんは、「あなたの方の座とは何か」、死んだあとまで差別されるのかと憤慨して、キリスト教に入信。聖公会の洗礼を受けたと言ふ。ところが、旧約聖書の中に「らい」はケガレだと言ふ記されているのを読み、これなら仏教と同じでないかと宗教そのものに愛想を尽かした由。以来マルクスを読み、さらにその背後にあるヘーゲルの哲学を学び続けてきたと言ふ。この話を聞きながら、日本聖公会が総会で決議した「ハンセン病回復者と家族のみなさまへの謝罪声明」の重さを思ふた。

北海道にハンセン病の療養所はない。そのため北海道にはハンセン病の患者はいなかったと思つている人もいるくらいだ。しかし、これは事実ではない。北海道のハンセン病患者の多くは海を越えた青森の松が丘保養所へ送られたのである。さらに松が丘ばかりではなく、菊池恵楓園も含めて全国の療養所に北海道

あれから一年

司祭 サムエル 吉野 暁生

出身者がおられたという。私たちの関心の薄さを反省しなければなるまい。この「人権セミナー」、来年の担当教区は北海道だ。幌延の核廃棄物処理場問題に焦点を当て、幌延の問題を過疎地に住む人々の人権の問題として学びたいと考えている。皆さんのご協力を心からお願ひする次第である。

二〇一八年九月六日未明に起こつた北海道胆振東部地震から一年が経過しました。短い間ですがボランティアセンターを開所させていただきました。全国からお手伝いに来てくださった方々、献金をおささげ下さった皆様に感謝いたします。ありがとうございます。

苦小牧市内はほぼ以前の様子に戻っていますが、震源に近い厚真町、安平町、むかわ町では、まだまだ被害が残っています。家を失つた人たちは、仮設

た。道路なども今まで通りになるにはまだまだかかるでしょう。苦小牧から三〇分程度車を走らせただけで、まだまだそこは被災地だということを感じさせられます。厚真町はハスカップだけでなく米どころでもあり、農家の方々は田んぼや畑が埋まつたり地割れがきたりと、以前のようには続けることが難しくなっています。

一番近い苦小牧にありながら、日常に追われ、なかなか支援をすることができないでいることを心苦しく思っています。しかし、忘れないでいることを、時々でも足を運ぶことを大切にしたいとも思っています。どうぞ皆さんも忘れず、お祈りのうちに覚えてくださるようお願いいたします。

住宅や「みなし仮設」などに移ることができましたが、ここでの生活再建もなかなか大変のようです。人口の流出も続いています。また、生活を継続できなくなつたり引越したりする人々もまだまだおあり、引越しや片づけのボランティアの募集が時折あるので、時間が許す限りお手伝いをさせていただきます。七月に教会のハスカップジャムのためにハスカップを採りに厚真町の農園まで行きました。途中、今も土砂崩れの後片付けが続いています。





▽旭川聖マルコ教会

九月に入り、バザーの準備がスタートです。今年は、グレースの会、エベコロベツ自給のむらの活動を支えるため、がんばります。

一日、ご主人の葬儀に先立ち古田富美絵さんの洗礼式が行われました。一五日は敬老礼拝、人生と信仰の先輩に感謝。二二日は近隣にバザーのトラクト配布。二九日、準備を重ねたバザーが無事に終了しました。

まだまだ暖かい日もありませんが、旭岳は初冠雪を記録し、確実に秋が深まっています。

▽岩見沢聖十字教会

九月一日、予定では横山明光司祭司式による聖餐式。緊

急入院された為、植松誠主教様をご奉仕。師の回復祈る。

七日、幼稚園運動会。今年のテーマは「新しい時代『令和』」。テーマに相応しく喜びと希望に満ちた園児達。一学期礼拝献金を雨宮春子姉「グレースの会」へ。遠くより祈る。

二二日、み言葉の礼拝に、安藤三名子姉とご主人様が出席。お二人ともお元気な様子。二九日、入院中の井上雅博兄退院。経過は良好。近日中に、娘の侑香姉が出産予定。主よ井上家をお守り下さい。

▽小樽聖公会

秋を迎えて教会まわりの環境整備が行われ、一八日には小樽聖公会を会場に道央分区分会が行われました。その日のために集会所のテーブルフラワーなども準備されて教会一同でお迎えしました。

二九日(日)の主日礼拝は植松主教様の巡回日。礼拝後は愛餐をともにいたしました。永谷司祭は札幌キリスト教会の早朝聖餐式と主日礼拝

奉仕をいたしました。

一〇月二二日には、教区・礼拝委員会主催のベストリーツアー・リードオルガンコンサートも予定されていて楽しみにしています。

▽新冠聖フランシス教会

九月三〜四日にかけて主教座聖堂にて開催された教区婦人会総会には、下川恵子さんと佐々木泰子さんが代議員として出席されました。特に、下川さんは新冠の会長になられて初めての総会ということ、良い経験をされたこととありました。

今年暖かい日が続いていましたが、二二日の主日礼拝前にはストーブに火が入っていました。季節の変わり目を感じさせられることとありますが、用意をしてくださる小泉さんのご苦労にはいつも感謝であります。

▽帯広聖公会

祭壇のろうそくにキャンドルキャップを購入しました。一日の主日礼拝後、信徒の枝さんによる「おとなの発

達障害について」の講演会を開きました。二二日は、長寿をお祝いする会に九名の先輩をお招きして、懇談の時を持ちました。橋本さんの巧みな進行で、事前にお聞きした愛唱聖歌を全員で歌いましたね。月末には、嘗ての教友のご親族が亡くなられ、キリスト教葬儀をご希望されたこと

で、永谷司祭、阿部執事で執り行われました。ご兄弟姉妹は双葉幼稚園、聖公会幼稚園の卒園生でしたよ。

▽稚内聖公会

「道北四教会合同礼拝」が終わって急にさびしくなった稚内。でも街にはまだ観光客の姿が(溢れるほどではないけれども)みられる。教会の将来を考え、近日中に旭川と合併。その後は教区の伝道所となる道を模索する。いずれにしても、日本最北端の地に福音の灯をともし続ける存在でありたい。教会の庭は近隣の加地さんがきれいに草を刈り、郵便物の整理もしてくださっている。解体の案も出て

いた教会の建物は当分このまま使用することに。雪の少ない冬でありますように！

▽苫小牧聖ルカ教会

二九日のバザーに向けてみんな準備をしている聖ルカ教会です。

八日マーマレード作り。前回煮詰める工程が少し短かったので時間をかけて行いました。

二二日は昨年二月に仕込んだ聖ルカ味噌をパツク詰め。今年の新味噌で、教会中が良い香りです。

▽平取聖公会

二九日はいよいよバザー本番。礼拝中に雨が降ってきて大慌てで雨対策をして開催。昼には雨も上がり、たくさんの方が来てくれました。楽しいバザーとなりました。神さまの恵みに感謝します。

▽植松聖公会

植松主教巡回に合わせて一〇月六日の主日に平取聖公会宣教一四〇周年記念礼拝を、新冠聖フランシス教会と合同で行いました。

一〇年前上平司祭在任中の

一三〇周年の折には、記念誌を発行しましたが、今回は年表の正誤訂正とこの一〇年間の内海司祭牧会の記録を追加しました。

年表を作成しながら改めて北海道における聖公会伝道にCMS宣教師の働きの偉大であった事を感じました。特にバチラーは日本語とアイヌ語を同時に学び、明治二二年の『アイヌ・日・英』辞典の刊行に始まり新約聖書、詩篇、祈禱書、聖歌集の全てをアイヌ語で刊行しました。

▽有珠聖公会

九月二十八日、今年で四回目となるバザーを実施。開催に向け前日から重い長椅子を動かしてブルーシートを敷きつめて売り場の準備。翌日も朝から総出で午後のオープンに備えました。バザー当日は、晴天に恵まれ、有珠の近隣から伊達や室蘭からも多くの方々がお訪ねくださいました。教員が力を合わせ、感謝と充実感の内に終了できました。翌二十九日は、主日聖餐式に

集い、霊の糧にあずかりました。

クリスマスコンサートに向けての準備が始まります。

▽留萌キリスト教会

突然別れの時が訪れた九月。一日、バルナバ池田聖司さんが、七七歳の生涯を終えて天に召されました。長期に渡って惜しみなくご奉仕下さり、教会活動を支えておられました。旧友らの祈りと共に感謝を込めて、御国への旅路を見送りました。

二二日、広谷管理牧師による主日聖餐式が行われました。二十九日、ヨセフ寺岡保さん逝去一年の記念式がありました。同日、旭川のバザーに、名寄の藤井さん夫妻が来店。道北のお交わりに感謝。

▽札幌キリスト教会

九月一日長寿会。三名の方のインタビューを通して幼少期から教会生活の歩みなどをお聴きする貴重な機会となりました。七日、パイプオルガン修復企画第二弾「落語と端唄の会」を開催。日本の伝統

芸能を味わう豊かな時間となりました。一六日の教会バザーでは、修復作業を終えたパイプオルガンによるミニコンサートも多くの来場者を迎えて賑やかなひと時となりました。工藤マナさんは英国での修道院生活に戻られました。

お働きの上に祝福がありますように。館石健生さん・しおりさん夫妻、藤井一毅さん・理子さん夫妻、夫々に男児誕生。健やかな成長を祈ります。

▽札幌聖ミカエル教会

教区婦人会総会にて、当教会の神林直子さんが次期会長に選出されました。神さまの力添えをお祈りします。一五日、敬老、長寿・子どもとともに捧げる聖餐式を行う。教会での積極的奉仕、行動力旺盛な方が多く脱帽です。二〇日、上遠野静枝さんご逝去。夫である故上遠野徹さんは、現教区会館はじめ、教区内のいくつかの教会、施設的设计監理に努めて下さいました。その働きを影で支えられた方

でした。主にある光明と平安をお祈りします。二十九日、ミカエルバザー開催。今年も婦人会はフル回転、また幼稚園の保護者、職員の全面協力で大に行われる。開催後の疲れが残りませんように。

▽新札幌聖ニコラス教会

九月三、四日の教区婦人会総会にはニコラス教会から五名が出席。恒例のミニバザーではごませんべいが即完売。前月の道北四教会に参加した菅原家族より出品された豊富のじゃがいもも無事みなさんの手に届けられた。

▽函館聖ヨハネ教会

多くの教友たちとの交わりを楽しむんだ総会では、各教会の婦人会・女性の集まりに変化があることを知る。ニコラスもこれからの教会を支える働き、奉仕の集まり方について委員会の中で話し合われる。

▽函館聖ヨハネ教会

七日、素晴らしい秋晴れの日、教会のオルガンとピアノの調律をお願いしている小川氏ご令嬢の結婚式が執り行わ

れた。神様の祝福を！親子二代。一五日、高齢者祝福式。八〇歳を祝し掌の十字架を贈呈。諸先輩のこれまでの働きに心から感謝。

二二日は待ちに待ったバザー。台風が懸念されたにもかかわらず、朝から清々しい晴天！市民は勿論、観光客も大勢訪れる。衣料品、日用品、ブースは賑わい、司祭自ら調理する焼きそばは完売。子どもの笑い声が響き、皆で助け合い、大盛況。喜ばしく、楽しい一日となった。

▽深川聖三一教会

九月三日教区婦人会の総会に高木和枝、甲斐富美子両氏出席。七日深川あけぼの保育園第四七回運動会、主題は「ベジタブル☆SPORTS DAY」野菜が大集合!!。雨天で北新小学校体育館を拝借。八日管理牧師広谷和文司祭が礼拝説教を担当してください。親しく交わりの時を持つ。甲斐司祭は旭川聖マルコ教会へ出向。一七回道北教役者会を聖三一教会で開催、霊の

勧話を広谷司祭より拝聴す。
二九日ギデオン協会旭川支部の山田氏ご来訪、一同証詞を拝聴し支援の祈りを捧げる。

▽網走聖ペテロ教会

道端にコスモスが可憐に咲く今日この頃、九月三日行われた婦人会総会に網走からは四名参加。学びと会議そしてテゼの祈りをしつつ。ラルシユでスタッフとして働いている女性からの活動報告を聞いた。八日主教様のご巡回。午後から北見への巡回、祈りと楽しい交わりの時が与えられた。

飯野司祭が北見日赤入院、病氣からの回復を信徒一同祈りながら、主日礼拝を守る。次第に寒くなってきつつあるが少ない群れを主は守り導いて下さっている。

▽北見聖ヤコブ教会

秋も深まり紅葉の季節となりました。八日主教巡回日、沢山の方が共に礼拝を献げ豊かな恵みの時となりました。一五日、ヤコブ教会唯一のぶどうは今年も多くの実を結び

収穫しました。皆で分け、隣りにも持参、喜んで下さいました。一九日司祭北見日赤入院、腸閉塞の手術もするそのうなので長期入院になるとのことです。一日も早い回復を願ひ、その間は信徒一同で主日を守ります。主の豊かな恵みと導きが日々一人一人の上にありますように。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

オリーブ会が日曜日に変更して半年、出席者も礼拝後という事で倍増し、勉強会も横道に逸れながらも楽しく充実しています。今月は教区婦人会に出席した及川由美子姉より報告、オルター奉仕も全員で協力体制となり、心強い展開となりました。

二九日教会敷地内の水科五郎伝道師記念碑前で祈りを共にした後、墓地礼拝が行われ信仰の先輩たちを思い、心身のリフレッシュの時を与えられました。その後、二月に逝去されたアンブローズ山本寿福兄の納骨式をご親族と教友

の祈りの中、行われました。また逝去記念として聖品等をお捧げくださいました。ご家族の上に平安と癒しがありましよう祈りつつ感謝です。厚岸での礼拝は今月もできませんでしたが、行いたい思いは夫々一致しています。

▽紋別聖マリヤ教会

夏の間、毎週の礼拝に参加していたご夫妻が一日を最後に大阪に戻られ、いつも通りのメンバーになり、少し寂しい思いをしています。二階の礼拝堂が暑いので、一階の幼稚園の教室をひとつ借りての礼拝も、やっと二階でできるくらい涼しくなりました。幼稚園では、収穫感謝礼拝で捧げできるくらいの沢山のジャガイモが収穫でき、その一部でいももちをみんなで作ってデザートとしていただきました。秋の味覚を堪能しながら、心も体もますます大きく成長できますように。

▽今金インマヌエル教会

今金町の九月は農作物の収穫最盛期でした。台風の

ニュースが世間を騒がせる中、農作物に大きな被害もなく収穫されました。

九月二日には、宣教の一環として毎年恒例の函館聖ヨハネ教会バザーに参加しました。出品物は今金産のじゃが芋を使った芋天、肉じゃが、手ですくつてもらう芋すくいや詰め放題も好評で、早々に完売してしまい、ディスプレイ用に飾っていた大きなカボチャも売れてしまう程大盛況でした。今年も実り多き収穫物を前に、主に感謝を捧げます。

▽室蘭聖マイタイ教会

地球温暖化による自然災害が各地で起きています。特に九州、千葉、本道も胆振東部地震で大きな被害が発生しています。教会関係にも被害が発生しているのではないかと危惧しております。平穩に暮らせる私共は本当に幸福です。

第二主日は吉野司祭による

聖餐式でした。司祭は多忙の中、よく管理して下さいます。

第四主日は主教様ご夫妻が巡回され、説教では私共の教会の教会名であるマイタイについて、その働きを説明されました。前日土曜日は使徒マタイの日にあたっております。

▽聖マーガレット教会

九月八日長寿を祝い、子ども成長を祈る祝福礼拝を奉げ、愛餐会は手作りのお赤飯を食べ、お楽しみ会では小貫多喜子さんの独唱と阿部正義さんのクラリネット演奏で楽しみ、紙風船等のお土産もいただきました。九月二三日教会バザー。毎年のことですが教会近くの方々から衣類等を大量に提供していただき、準備にますます力が入る。バザーへの問い合わせの電話もたびたびあり、すべてがうまく動いている時、台風です。二〇日最終決定、やきとり、やきそばのみの中止。あとは教会内にて力を合わせ力を主に。

